

## アマダイ通信NO. 92

(Tile fish network letter)

2012年 紅葉す

### 知人・友人各位

尖閣諸島の問題を巡り、日中双方でナショナリズムが高揚、「政界再編」も気がつけば、「維新」も「石原新党」も超保守。次期総理に一番近い自民党の安倍総裁も同じ。勇ましい議論が横行する。しかし領土問題は話し合いが、戦争でしか片がつかない。目先の対応も必要だが、封建国家ドイツや都市国家イタリアが一つの国民国家に、更にEUへと統合、貨幣だけでなく金融や財政も統合しようという時代に、冷静な対応が必要だ。

長らく相食む弱肉強食の時代から、農業革命、産業革命、エネルギー革命によって、ようやく人類はここまで来た。しかしそれは限りある資源を蕩尽する過程でもある。資源を有効配分し、効率利用、人間居住環境としての地球を維持していくためには、百年単位での太陽エネルギーの固定と資源完全リサイクルシステムの確立、万年単位での核廃棄物の安全管理、更には地球消滅の日に向けて、新たな宇宙へ旅立つための億年単位？のイノベーションが必要である。否応なく地球は対立と抗争から、統合へと向かわざるを得ない。

### ◎水セキュリティの高い街

愛知で、スーパーの食品工場の新築に当たり、電源開発の井水利用専用水道の設置を提案、採用され、深井戸を掘る。ところが、水量が想定4割しか出ず、少ない水量ではコスト高となり、公共水道より安く水を供給出来ない。経済的メリットが出ないので、膜濾過装置を利用した高度浄化システムの設置を断念する。元々この地域は岩盤が固く、地下水量の少ない地域。国交省にある全国の深井戸台帳や近隣の井戸のデータを慎重に検討、大丈夫だろうと判断。多少のリスクを押し井戸を掘ったが、残念な結果に終わった。

●通信読者の設計事務所の提案で、お客さんが自前で井戸を掘り、浄化設備を設置・運営するよりも、電源開発に任せた方がリスクなしで、コスト的にも安いということで始まった今回のプロジェクト。井戸掘り費用も電源開発が負担、失敗してもお客さんの負担はゼロ。自分でやると大きいリスク負担だが、何十件と手掛ける電源開発に任せると、1件当たりのリスクを広く分散できる。水量不足とは言え想定水量の4割、1日40tは出る。井戸はお客さんに残す。庭水や掃除、非常時のトイレ用には使える。家庭用を大型にした可搬式の簡易な膜濾過式の浄水器を用意しておけば、非常時の飲用水にも利用出来る。

発電専門の国策電力会社電源開発が、民営化後の新規事業として始めたのが従量制の井水利用専用水道システム。電源開発のリスクで井戸を掘る。適量、適質の水が出れば、通常の公共水道のレベルの浄化をした上に、クリプト菌などの、浄水場では通常は取れない細菌まで除去する膜濾過装置を備えた浄水システムを、電源開発の費用で設置、高度処理した水を、公共水道より安く買って頂く。お客さんは使った量のお金を払うだけ。公共水道と併せ水道を二重化、地震の際など公共水道がストップした時も水を供給、事業の継続性を高める優れたシステム。1日百トン、年間4万t前後、金額で1千万円ほど水道水を使っている事業所では導入可能。一度●にご相談下さい！

昨年 3 月 11 日朝通水式をした筑波大学付属病院では、地震で市水が 3 日間断水。その間電源開発のスタッフが泊り込みで奮闘、実験動物や人工透析、手術に必要な水まで、専用水道だけで病院に必要な水を全て賄い、大学から大感謝された。都の金町浄水場の水道水の放射能汚染が問題になった時も、東大病院の産婦人科と小児科病棟で使う水は電源開発の井水利用専用水道が供給した。地表の雨水が地下深く沁み込むには長い年月が必要。その間に何層もの砂礫や粘土の層を通過、きれいに濾過される。更に膜濾過で分子レベルの高度処理、硬度なども調整、衛生的で美味しいだけでなく、空調や人工透析にも最適な水を安く供給する。東京では条例で原則新規に井戸を掘れないが、既存の古井戸をリニューアルした東大病院では年間 3 千万円ほど、白金の医科学研究所でも同様に 1 千万円ほど、水道料金を削減。●は毎年 4 千万円ずつ母校に「寄付」している。

一番貢献しているのは JR 西日本の京都駅ビル。二度工事をし、飲用水の他に雑用水も供給、年間 7 千万円ほど水道料金を削減した上で、水道インフラを二重化、事業継続性を高める。毎年の純益 7 千万円は大きい。新幹線側の JR 東海京都駅も、新しく出来た駅中の近鉄ホテルも、井水利用専用水道システムを導入、京都駅は地震に強い。地震で公共水道が止まっても、京都駅に行けば、命の泉がある。盆地で地下水が溜まり易く、琵琶湖も近い京都は、地下水が豊富で水質もいい。京都大学もほとんどの水を地下水で賄う。京都駅前のヨドバシカメラ、反対側のイオンモールも地下水を利用、水源を二重化している病院やホテル、商業施設などが多い。その意味で京都は水セキュリティの高い街だ。

### ★山手線の内側駅前、本社用地最適の土地あり！

千坪ありますが、5 百坪に分割も可能。興味のある方は●までご連絡下さい！

### ★都区内ビジネスホテル用地求む！

JR、私鉄、地下鉄問わず、駅近で百室(床面積 3 千㎡)以上のホテル建築可能な土地を探しています。建物賃貸も可で、表通りの接面は不要です。興味のある方は●まで！

### ◎美しい十代・・肩痛、腰痛はゴルフで治す！？

ステージⅢb (ほとんど治癒する見込みなし：岩波新書「胃がんと大腸がん」) の大腸がんの手術からそろそろ 10 年。他の臓器に転移がない(a) 場合は 5 年で完治とされるが、リンパ節 3 か所に転移、治癒する見込みなし (b) の●はまだ四半期に一回主治医の診察を受け、年に一回大腸の内視鏡検査と腹部、胸部の CT を撮る。再発や転移の兆はなく、年明けには主治医から解放宣言されるだろうが、最近では腰や肩の方の悩みが多い。

20 年ほど前ぎっくり腰を経験、動くこともできず、5 月の連休を丸ごと寝て暮らす。昨年二度目の発症、2、3 日で歩けるようになったが、又、腰の辺りに鈍痛を感じる。酷くなる前にと昨年世話になった近所の整形外科に行くが、受付のノートに名前を記入、2 時間、3 時間待ち。事務所の近くの整形外科に行く。型通り問診、レントゲン撮る。最後に「牽引しますか？」と聞かれる。医者が言うのだからやった方がいいかと、手枷、足枷で、足に錘をぶら下げ、背骨を引っ張る。牽引されている時は感じなかったが、終わって起き上がる段になると、腰が痛くて起き上がれない！まさにぎっくり腰の症状！

勝どきの整形外科では第 4 腰椎と第 5 腰椎の間の椎間板が潰れていると言われた。はみ出した椎間板が神経に当たると足が痺れるが、そこまで酷くない。腰を落とし椎間板圧迫

の状態椅子から急に立ち上がる、鉢を持ち上げたりして背を伸ばすと、縮んだ脊椎が伸びて刺激され、炎症を起こし激痛が走る。姿勢を変える度それが繰り返されるのがぎっくり腰。人工的にぎっくり腰が発生したのかもしれない。今回の痛みは左臀部。ネットで調べたり、同じく腰痛持ちのアシスタントに聞くと、長時間同じ姿勢で座ったり、負荷がアンバランスにかかったり、疲労が蓄積したりで坐骨神経痛が起きたようだ。痛い時に牽引するなんて、ヤブ医者だとアシスタント。不明を恥じる。整形外科で貰った消炎・鎮痛剤を飲み、数日で腰の痛みはほとんど消えるが違和感は残り、腰に何か爆弾を抱えたようだ。

左肩も一時、前後に振ると痛くてゴルフも控えようかと思ったが、幸い左右に振っても痛くない。ゴルフは前後ではなく、左右にスイングするのだから大丈夫だと言いつけ、多少の痛みは我慢してプレーする内に、前後に振った時の痛みもいつの間にか消える。腰痛には歩いて筋肉をつけるのがいいと、ゴルフの時も全コース一人だけ、歩き通す。先日ホームコースの小川カントリーで寮の仲間4人、友人3人でプレー、一人だけ歩き通す。午前中56と調子は今一。午後のスタートのホールで第一打を打ち、斜面を駆け降りようとして、昼休みの雨で濡れた草で滑り、オデコと肩から転んだ先がアスファルト舗装のカート道。粗いオロシ金で擦りおろす感じで、額と右肩、左膝が赤く腫れ、シャツも肩が破れる。午前中よりスコアを落とし59、又も美しい(百)十代。

### ◎故郷を生薬の里に！

この夏、製薬会社や生薬販売会社などでつくる社団法人東京生薬協会（会長＝藤井隆太・龍角散社長）の一行が、故郷秋田の八峰町を訪れ、生薬栽培促進の連携協定に調印、年内に漢方薬の原料となる生薬の試験栽培に取り組むことに。町・私有地併せ約50アールでセンキュウ（セリ科の多年草で体を温め貧血や冷え性などの薬）、トウキ（セリ科の多年草で増血・強壮薬）の2種類を栽培、10年後に20ヘクタールまでの拡大を見込む。

八峰町は気候や地形が生薬栽培に適し、自生する生薬も多い。🍄の小さい頃はお腹の具合が悪いと山で採ったセンブリ（リンドウ科の越年草、煎じて千回振り出しても苦い）を煎じて飲まされ、その苦さには参った。良薬は口に苦しである。黄ハダ（蜜柑科の落葉高木、染料にも）も自生、その黄色い木肌を剥がしたものは煎じて飲めば健胃薬に、微粉末にして小麦粉で練り患部に巻きつければ、打撲や熱冷ましに、大きく育てば床柱や化粧板にと、皮も木も丸ごと利用できる優れ物。保険金殺人事件に使われ有名になった鳥兜も、🍄の実家の山に薄紫の可憐な兜を風になびかせ、群生する。

生薬の8割は中国からの輸入だが、最近は世界的な健康ブームや中国、韓国の所得向上による需要増加で価格も上昇、供給リスクもあり、国内での栽培が進む。中山間地で条件が厳しく、有休農地の多い故郷は生薬の栽培適地、一大産地に育つと嬉しい。加工施設に統合で空いた小学校の空き校舎も活用、製剤工場まで出来て雇用を生み出せたら最高だ。

一年前の東京での故郷会の翌日、中学・高校同期の龍角散の加賀亮司取締役と加藤八峰町長を引き合わせ、共に語った「夢」が「現」になりつつあるのは嬉しい。今年の八峰町関東ふるさと会総会・懇親会は11月18日（日）12時より、市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷で開催されます。多くの故郷の仲間と一緒に「夢」を語れると嬉しい。

### ◎船頭も百姓！？

移動の列車内と土・日の図書館でしかまとめて読書の時間をつくれぬが、のぞみ車内で「日本の歴史を読みなおす(全)」(網野善彦・ちくま学芸文庫)を広げる。通説を書き替えた網野日本史、後半冒頭の、「百姓」の意味解きが面白い。

我が家のルーツ、高田屋嘉兵衛配下の「北前船の先頭」も能登の土地無し、「水飲み百姓」。「水飲み」は土地がなくて米を食べられず、水ばかり飲んでお腹を膨らませた貧しい農民だと思っていたが、農業以外の仕事を持ち田を必要としない民も言うのだと理解。「百姓」イコール「農民」ではない。百姓は百の姓ということで、船頭も鍛冶屋も馬借も、色々な職業が含まれ、農業従事者だけを言うのではない。

通説は百姓＝農民と誤解、日本の中・近世を農業国家と定義した。農業生産力が発展、職業が分化、分業が進む。国内、更には大陸、半島との特産品の交易も進み、商業作物の生産や鉱工業、流通も発展、資本の蓄積が進み、資本主義経済が生まれ、明治以降の急速な近代化の受け入れに繋がった。通説だった「農業国家」の中・近世日本と違った日本、維新から明治の急速な近代化につながる封建体制下の日本経済の発展が見えて来る。

### ◎さらば復讐の狼たちよ

三鷹寮の仲間とゴルフ、昼食のテーブルを囲むと、中国の反日騒動は一方的で酷いと、元毛沢東主義者の●は日本に於ける中国共産党の代理人かの如く、集中砲火を浴びる。「中国共産党」は今や共産主義者の党ではない、中国は社会主義社会ではなく、官僚独裁の国家独占資本主義社会だ。「愛国」を過度に強調せざるを得ないのだ、弱さの表れだ、一緒にしないでくれ！と言っても通じない。日本政府もまずいが、中国も困ったもの。「愛国無罪」から「革命無罪」に転化する芽も見える大陸のデモ、経済格差が酷すぎ「革命」では国民を統合出来ず、「愛国」で引っ張ろうとするが、上手く行くか？デモのプラカードに毛沢東の肖像画が多数登場、今夏の「緑の地球ネットワーク」の山西省大同市への植樹ツアーの際も、北京の天安門の毛沢東祈念館には長蛇の列。経済関係、国際信用も含めリスク大のデモは抑え、ガス抜きと日本の実効支配への挑戦にもなる「洋上実力行使」に力を入れるが、危険な火遊びにならぬように話し合いの場を設け、解決したいものだ。

「さらば復讐の狼たちよ」という、中国で大ヒットの映画を見る。経済誌によれば中国型成長システムの裏を抉り、利権に無縁な庶民の共感を呼んだという。レッドクリフを越え、中国映画史上興行収入ナンバーワンの大ヒットとのこと。中国の事情に疎い日本人には西部劇や七人の侍に似たよく出来た活劇。東京で一館だけ上映の、お盆休みの六本木の映画館はガラガラ。金で官職を売買、庶民から絞り取った金の分配、麻薬や人身売買の上がり地主や軍閥、腐敗官僚が争う。孫文の時代の設定とは言え、中国の民衆は今に重ねて快哉を叫ぶ。最後に民衆が蜂起、権力を打倒して終わるが、来るべき新しい中国革命の暗示か？月給 4、5 万円の官僚が高級マンションに住み、高級車を乗り回し、子供を海外に留学させ、香港や海外に不動産等の資産を持つ。日本では想像出来ないスケールの腐敗。民衆の目を外に反らすためにも民族主義・対外強硬路線を強めざるをえない。何のために孫文は、毛沢東と共産党は二度の革命を進めたのか？二度あることは三度あるのか？

そんな折、久しぶり二度目の首相官邸訪問。旧運輸省原籍の旧知の千代内閣広報官と久しぶり顔合わせ。夏の中国ツアーで垣間見た中国事情を報告、●通信読者で法学部の後輩に「植樹 20 周年黄土高原紀行」を手渡し。温家宝首相の右腕、令計画中共中央弁公室主任

等に繋がる NPO 法人「緑の地球ネットワーク」の高見事務局長の人脈を、日中関係改善に活用出来ないかアピール。前回の官邸訪問は自民党政権で小渕総理の時。総理訪中の手土産に 10 年間 10 億ずつ、計百億円を中国の緑化協力に使う計画が持ち上がる。ノウハウが欲しいと高見君と官邸に呼ばれる。総理の横に座っていたのが三鷹寮で 2 年下、経産省から出向していた北村秘書官、現国際石油帝石社長。

小渕基金も活用、黄土高原に大きな緑の森が出来、環境も改善、農村の生活も向上、現地の対日感情も好転、人の輪も大きく広がった。悪化する日中関係改善にこのノウハウとネットワークを使えないか？10 年前の訪問は今は首相公邸として使われる旧官邸。今回は建築のお手伝いもした新官邸。石とコンクリートの重厚で落ち着いた雰囲気、旧官邸に比べガラスを多用、明るく、軽快。踏絵を踏み官邸に官僚として入るか？実行行使でその地位を奪い取るか？半世紀近く前の青い決断が彼我を分ける。今、第三の方法ですり抜ける。

#### ●のポルトガル紀行 (LOOK JTB「ポルトガル8日間」2012. 4. 30～) (上)

4 月に入り、中央区の月島図書館で「ポルトガル夢ホテル紀行」(東京書籍)を借り、ポルトガルツアーの予習開始。虹色の夢を掻き立てるだけの紀行文は早めに読了。隣区の豊洲図書館から借りた「ポルトガルを知るための 62 章」(明石書店)で、ポルトガルの基礎知識を学ぶ。「図説ポルトガルの歴史」(金七紀男、河出書房新社)はツアーと同時進行に。

#### ① 瑞穂の国から麦の大陸へ

幸い窓際の席、ロシア沿海州に入ると、成田からの雲も途切れ、下界の景色を楽しむ。4 月末というのに、凍てついた川がなだらかな山なみの間、雪の荒野を白く蛇行する。シベリア深く入ると、万年雪に厚く覆われた北極圏。昨夏カナディアンロッキーで見た氷河のように夏には氷が融けかけエメラルド色に輝いて見える川も、ただ白く凍った「氷河」となって流れる。機内のテレビはウラル山脈を越え、極東からヨーロッパに入ったことを教えるが、圧倒的に人を寄せつけない白い世界が続く。地球が温暖化すれば、ここも肥沃な耕地となる。温暖化より恐れるべきは、氷期が到来、南北アメリカやユーラシア、豪洲の穀倉地帯が氷で覆われることではないか？これまでも氷期に人類は飢饉で苦しんだ。

バルト海に入る。氷も薄くなり、氷の間から青い海が見える。薄く張った氷が海に浮かぶ白い島のように見え、青い海と白い雲の間に土気色の緩やかなカーブが走る。西ヨーロッパの陸地だ。海が飛び去り、森の黒い緑と、麦の緑、それに菜の花の黄色、芽生えを待つ土の色のパッチワークが美しく広がる。代掻きを終え、田植えを待つばかりの、水に浮かぶ瑞穂の国の緑の成田も美しいが、麦の邦の緑と土のパッチワークも素敵だ。

時差 7 時間のミュンヘンに夕方 5 時半着。気温 25 度、東京と同じ。確か北緯 45 度、「札幌、ミュンヘン、ミルウォーキー」という、サッポロビールの CM を思い出す。昼と夕方、機内食で二度飲んだドイツビールはホップが効いて苦味がきつい。マイルドで味わいのあるサッポロ黒ラベルが早くも懐かしい。ドイツらしいシンプルで、広々としたターミナル。ルフトハンザの搭乗口前に無料のカスタンド。チョコと白湯を頂く。巨漢揃いのドイツ人には似合わぬ細やかなサービス！？乗り継ぎの手荷物検査もきめ細か、今まで一度も引っかけたことのないザックが、何回も検査機を往復。

## ② 辺境と先端と

ミュンヘンから更に3時間。日本と時差8時間のリスボンへ。簡単な機内食。ミュンヘンまでと同じビールが小瓶で出る。9時半過ぎのリスボンの気温は12度、肌寒い。大陸の東端、黄金の国ジパングから大陸西端ポルトガルまで、時間と金と体力を使って旅するのは何故？世界中に東京で手に入らぬ物はなく、食することの叶わぬ味はないというのに、好奇心の赴くままにユーラシア大陸の西の果てに流れつく。空港から人口50万のリスボン市街のホテルまで20分。小振りだが清潔、バスタブにビデまである広い部屋で、持参の万能コンセントとポットでお湯を沸かし、ミニカップラーメンをお腹に入れてベッドへ。

2日目の出発は10時と遅い。パンとチーズ、ハム、ソーセージ、スクランブルエッグとゆで卵、ヨーグルトとフルーツに飲み物と、盛り沢山。外に出ると小雨がぱらつき寒い。1755年のマグニチュード9とも言われる大地震と津波、その後1週間にわたり火事が街を燃やし尽くす。人口10万の都市は一瞬にして瓦礫の山と化し、1万人以上の死者で、リスボンは壊滅。ヨーロッパ各国から国際的な支援が寄せられた。これが震災を巡る最初の国際支援。震災後の生存者への食料供給、仮住まいの手当て、秩序回復等の震災処理に辣腕をふるった啓蒙主義政治家で宰相のボンバル伯爵。バイシャと呼ばれるリスボン市街区を近代的な都市計画に基づき造り上げ、碁盤の目状に区画整理された土地に、高さ5階のボンバル洋式と呼ばれる、新古典主義の建物が美しく列なる。これが世界最初の都市再生計画。時を経て空地はコンクリート製のモダンな建物で埋まり、クラシックな石造建築との対称の妙。かつてポルトガルが先端を切った大航海時代以来の造船やロープ、帆等の工場群、胡椒や砂糖を貯蔵した倉庫地区の再生等、現代ポルトガル建築は時代の先端を歩き、日本人建築家もよく見学に来ると、現地日本人ガイド。

スペインとポルトガルを横断する大河テージョ川の河口に発達したリスボンの港、大航海時代の足跡が残るベレン地区に、新大陸発見の巨大帆船の記念碑。先頭の大航海時代の先陣を切ったエンリケ航海王子にアフリカ・ポルトガル帝国を形成したアフォンソ5世が続く。インド航路を発見したヴァスコ・ダ・ガマやブラジル到達のペドロ・アルヴァレス・カブラル、初の世界一周のマゼランが列なり、最後尾に日本で布教したイエズス会宣教師のフランシスコ・ザビエル。東を大国スペインに抑えられ、時に属国として併合された、西欧の辺境国家ポルトガル。ワイン醸造以外さしたる産業も資源も持たぬ農業国。大西洋に面し、その先にあるだろう新大陸に一番近い。土地を持たぬ貴族の二三男や目端の利いた若者は先ずは胡椒、次いで金銀を求め、一攫千金を夢見てリスクを取り荒海に。命知らず、ウルトラハイリスク、ハイリターンベンチャー起業家。目的のためには手段を選ばぬ荒くれ男であれば殺人、強姦、放火、略奪何するものぞ！胡椒も金銀も尽きれば砂糖がある！とばかり、ポルトガルから生活用品を新大陸へ、アフリカから黒人奴隷をブラジルへ、ブラジルから砂糖を本国への「三角貿易」。ベンチャー起業家は今も英雄視されるが、残虐の限りを尽くされた側から見れば、極悪非道の鬼畜人。この碑を裏から見ると十字架が浮き彫りにされ、宗教家ザビエルが「英雄」群の末席に列なるは宗教の本質の一端。

この記念碑がエンリケ航海王子の5百回忌の1960年に造られた事実が先端から末尾へのポルトガルの再度の没落を物語る。大航海時代に出遅れたイギリス、フランス、最後発ドイツが、植民地から上がる少ない利益を工業化に再投資、産業革命を進めて国力の増強を謀る時、植民地からの収奪に最後まで拘り、浮利に飽かせて豪華絢爛な宮殿や教会の建築、

歌舞音曲、グルメ三昧、挙げ句の果ては王公貴族が尼僧院に夜毎通う、「文化」の爛熟。観光客には見ものと味物が一杯だが、ポルトワインと観光以外に末裔は食べる手立てなし。歴史と人生は糾える縄の如し。ポルトガルは何処へ行く！

### ③異国で故郷を想う

ギリシャの次はポルトガルかと、金融破綻が取り沙汰されるポルトガル。ギリシャと違いポルトガル政府は緊縮財政で財政再建を進め、国民も勤勉でよく働くが、リスボンでも1日28件、銀行による家の競売があると日本人現地ガイド。去年の冬の公務員のボーナスは半減、年金もカットされ、大分国民の不満が高まり、今日のメーデーは盛り上がるだろうとも。フローは別にして、ストックの厚さを感じる、港を見下ろす高台の、白鳥、黒鳥の泳ぐ池のある広い庭園の、素敵な雰囲気のレストランでお昼。豆のスープとサラダ、鴨の炊き込み御飯(釜飯?)サラミのせ、アイスクリーム、カプチーノと紅茶のチョイス。インディカ米の炊き込み御飯はパエリアやリゾットと違い軟らかく、紅茶は薄い。スモールカップのコーヒーは思いっきり苦く、一杯4ユーロの生ビールはまるやか。

高速道路をオヴィドスへ110キロ余北上。石灰岩質の白っぽい道の側面に咲くエニシダの黄とひなげしの赤。プラタナスの花の白とピンク、アカシアの白い花。寒いせいか、桜の美しさにも比べられるジャカランダは、ぼつぼつ紫の花をつけるだけで残念。なだらかに傾斜する畑も石灰岩質で水はけがよく、保水力が弱いので果樹栽培に適している。小麦より葡萄や梨などの果樹が多い。白い花をつけるのはリンゴか？他にオリーブやアーモンド、オレンジなどの柑橘類。森にはコルク樫の他に松やユーカリ。コルク樫はワインの栓、内装材、断熱材、松は接着剤、密植されヒョロヒョロ伸びるユーカリはパルプに利用される。石より木の値が張るので、建築に木は余り利用されない。11月からの雨季、雨が少なく、小麦の作柄や牧草の成長が心配されたが、このところの雨で一安心とガイド。牧草が成長しないと牛の乳の出が悪く、チーズの出来も悪くなると、日本人ガイドが真面目に心配する。この国の経済における農業の重さとポルトガル経済の問題点を感じる。

オレンジの屋根と白壁、緑の森と畑の連なる丘の頂には発電の風車の群、脇に粉ひきのための小さな風車。朽ちかけたものもある。新旧交代の妙！原発はなく自然エネルギーが4割を占め、波力発電の開発も進む。電力の確か7割を原発が占めるフランス、高値で買う自然エネルギーが増え過ぎて息切れする隣国スペインに比べると優等生だ。化石資源に乏しく、海に面し風力資源に恵まれる点で日本とポルトガルは共通。国土の半分が大西洋に面するだけのポルトガルに比べ、四周を海に囲まれる日本は風力、波力、潮力等の自然エネルギーに恵まれる。農業国からの脱皮、新エネルギーの創出で経済構造の転換を計るポルトガルに、学ぶ必要はないか？

ローマ時代に海からの外敵への備えとして造られた要塞都市オヴィドス。イスラムの侵入を許したが、12世紀のレコンキスタ(国土回復戦争)でムーア人を追い出すと、19世紀半ばまで王妃の直轄地となった。今はリスボン市民の避暑地。市民が普通に別荘を持つ。20万ユーロで2LDKのコテージが手に入ったというが、バブルが弾け、空き家が目立つ。人口8百人の町をぐるりと囲む城壁から見下ろすと、遠く風力発電の風車が列なり、町を挟んで鉄道と高速道路が駆け抜け、今は使われなくなった水道橋が美しいアーチを重ねる。伝統衣装の老若男女が民族舞踊のタップで歓迎してくれる。歴史の流れを感じるひと時。

次は2日目の泊地、海辺のナザレへ40キロ。1954年のフランス映画「過去を持つ愛情」の中で主題歌「暗いはしけ」をファドの女王、マリア・ロドリゲスが歌ったことで日本にも知られ、夏にはヨーロッパ中からバカンス客が押し寄せる漁村。マリア伝説の、オーバーハングする断崖絶壁の展望台から見下ろすと、淡いベージュの砂浜がオレンジの屋根の町並みと青い海を隔て、砂浜と海の上に白い波頭が弧を描く。故郷白神と同じで、東の山から登った太陽が西の海に沈む。残念ながら、香ばしい鯛のグリルを骨ごと3匹食べ、1杯3ユーロの生ビールとハーフボトル10ユーロのグリーン(白)ワインを楽しむ間に、お陽様は姿を隠す。久しぶり潮の薫りを嗅ぎながら海辺を散策、波と戯れる。砂浜に寄せられる海藻と貝殻の少なさ、断崖絶壁直下の磯の岩に着くのは布海苔やアオサの海藻ではなく、小さなムール貝(紫イ貝)とわずかなひざら貝のみ。遠く異国で白神の海の豊穡を想う。

#### ④棒鱈も生き返る奇跡の国

ナザレのモダンなホテルの向かいに野菜と鮮魚の市場。色とりどりの野菜と果物。バナナ1キロ1ユーロと安い。魚も鮫鱈やメバル、太刀魚、鯛、スズキ、鱈の開きもあるが、昨日伝統衣装のペチコートをはいた屋台の物売りが売っていた「白爪貝?亀の爪?」はない。白神の磯の岩の割れ目にびっしり生えているが、誰も見向きもしない。岩の表面に突き出た、白く尖った鋭い「爪」の2、3倍の長さの、岩の間に張った根というか、身をボイルしたり、炒めたりして食べるという。同じように白神の磯や港の岸壁に無数に生えながら見向きもされない紫い貝を含め、故郷の町興しに使えぬか?断崖絶壁をくり貫いて、上下の街を結びケーブルカーが走る。

30キロ弱離れたバターリャへ。途中「東方商場」と書かれたチャイナマーケット。膨大な人口圧力の成せるわざか?中華思想の伝導か?不自由な国故か?!どこにでもあるチャイナ。ロマの物売りが仕入れに使ったりするという。羊が草を食むのどかな田園風景が続く。ポルトガル語で「戦い」という意味のバターリャ近郊で1385年、攻め込んだカステールリャ軍をジョアン一世率いるポルトガル軍が破る。スペインに対して独立を守る歴史的勝利。聖母マリアに感謝を捧げるため修道院建立に着手、16世紀初頭まで引き継がれる。壮大華麗な修道院はゴシック・マヌエル様式を代表する建築の一つで、世界遺産。

第一次大戦中の1917年、3人の子供達の前に聖母マリアが出現する奇跡が起こったというファティマへひとつ走り。30万人収容の大広場の前に65mの塔を持つバジリカや教会、礼拝堂等が建てられ、世界中から多くの巡礼者を集める。氷雨で震える🌧の目の前を膝をついて進む巡礼者。人と金を集める「今ある奇跡」と信仰の生々しさを感じる。

30キロ離れたトマルで12世紀に Templar 騎士団によって創建されたマヌエル様式の、ポルトガル最大規模の美しい修道院を見学後昼食。あのカチカチに固い棒鱈が干し鱈のコロッケになって、口の中で美味しく、生々しく生き返る奇跡!?この国には棒鱈を戻して使う料理が365種以上、毎日食べても飽きないのだ!ちょこっと戻して煮物に使うか、焼いて叩いて酒のつまみにして、挙げ句の果て、歯の間に挟まりやがって!と腹を立てるしか能のない日本国民は深く反省!ポルトガルに、「種子島の鉄砲」以来二度目の、歴史的教えを乞い、奥深き鱈文化を学ぶべきではないか!棒鱈による故郷の町興しを!?

食後ポルトガル第二の都市ポルトへ250キロひた走り。ホテルで夕食。菜っ葉の千切りとチョリソー、マッシュポテトのスープ=カルロヴェルディと白身の魚のグリルを友に、



生ビール5ユーロとグラス6ユーロのグリーン(白)ワインを楽しむ。デザートはパンディエーロ(パンケーキの一種、代表格。泡立てた卵の白身と、黄身に砂糖を混ぜて泡立てた物を混ぜ、更に小麦粉を少し混ぜ攪拌、焼くと膨らんで城の様になるので、カステーリョと呼ばれる。カステラの起源?)。食事はしょっぱく、デザートは甘く。(次号に続く)

### ◎「文化財の保護」・・・東大三鷹クラブ第105回定例懇談会のご案内

今回は昭和28年入寮、29年に2期寮委員長を勤めた黒田哲也氏のお話を伺います。黒田氏は、最初のI期は、小生も食堂委員としてお手伝いしましたが、新装なった明寮委員室で、勉学はそっちのけで様々の人生論に明け暮れていたように思います。

昭和32年に文学部心理学科を卒業、当時の電電公社に入社。経営学の勉強もし、若い頃、Dマグレガー著「企業的人間的側面」の訳者に名を連ねたこともあります。昭和60年、電電公社がNTTに変身して間もなく、ポケットベル・自動車電話等を取り扱う関連会社に転出したのですが、平成3年、中山素平氏の懇請でNTTグループを離れ、氏が主宰する緑化事業に携わることになりました。その時、保有していた前の会社の株がその後ドコモ株として大化けした由。そこからが黒田氏の黒田氏たるゆえんのところで、かねて画才を生かして個展も数回開き、平成17年には「美の要件一画論と画集」(美術出版社)という著書も刊行しているほどの腕前。思わぬ収入を日本、東洋、西洋それぞれの文化財保護に役立てようと、社会貢献プロジェクトを立ち上げたわけです。

東洋については、平山郁夫画伯と東京文化財研究所の協力を得て、中国陝西省にある「唐の十八陵」のうち、乾陵・橋陵・順陵の石彫像群の修復を、西洋については金沢大学の協力を得て、イタリア・フィレンツェの世界遺産サンタ・クロチェ教会の主祭壇壁画「聖十字架物語」の修復を、それぞれ近年完成させたばかりです。いずれも十年がかりのプロジェクトでしたが、なかんずくフィレンツェの文化財修復については、イタリア政府もこれを高く評価し、東京のイタリア大使館にて国家勲章の授与式もありました。

最後に、日本国内の貢献をどうしたか、また、有形文化財保護の現状等について一般論を交え、興味深い話が聴けるものと思います。(昭和28年入寮 船岡正道)

日時：平成24年11月22日(木) 18時30分～21時

場所：学士会館本館302号室(千代田区神田錦町3-28) Tel 03-3292-5931

会費：5000円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 Tel 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email：[tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp](mailto:tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp)

二次会：別途 近くの中国料理店SANKOUEENで、講師参加で行います。

### ◎鰻と鯉を食べて、恋を!?

夏休みの終わり、寮生が帰京した頃を見計らって寮生8人と駒形どぜう渋谷店でドジョウを食べる。味は文化で、若い皆が社会に出てグローバルに活躍するためには外国の文化を知ることが必要だが、自国の文化を知ることなくして、相手の尊敬を得ることは出来ない。食文化も然り! 🐡も世界中を歩いているが、外国でどぜう(鰻)を食べたことはない。鯉(なまず)はかなりポピュラーな食材で、メコン川で養殖したベトナムの鯉が大量にアメリカに輸出され、貿易摩擦を起こしたりしている。何でも食べる中国で 🐡も食べたこと

のないどぜうだが、日本では農耕と結びついた、古来ポピュラーな食材。

稲作に化学肥料や農薬が大量に使われるようになるまで田んぼを泳ぎ周り、雑草を食べたり、土をいじることで、稲の根が酸素や栄養分を吸収しやすくする鱒。役目を終えた秋には、どぜう鍋やどぜう汁、柳川鍋、唐揚げ、佃煮、骨煎餅等で舌を喜ばせ、多彩などぜう文化が発展、貴重な蛋白、カルシウム源となった、優れもの。

寮生諸君には鯉も食べて貰う。鯉もかつては田んぼの王様。鯉というか、淡水魚を生で食べるのは日本独特の文化のようで、中央アジアのウズベキスタンから来た友人に鯉のあらい(刺身)を食べて貰ったら、感激する。鯉と一緒に食べて、日本の食文化について蘊蓄を傾けたら、恋も成立するかも知れません！？

ところで、何で🍀が乏しい財布をはたいて若い諸君にご馳走するか？こんなこと言うと鯉も喉を通らなくなるかも知れないが、ノブレス・オブリージュ(選ばれし者の責任)を意識して欲しいからだ。選ばれて東京大学で学ぶ者として、いずれ社会の各分野で重要なポジションを占め、それなりの待遇を与えられ、社会のために働くことを期待される。その期待と待遇を享受するだけでなく、期待に応え、社会に貢献していく責任があるということを知覚して欲しい。そのために若い諸君が交流し、切磋琢磨する場を用意する、ネットワーク形成の手助けをするのも、🍀のノブレス・オブリージュだと思っているからだ、ということを知覚して若い諸君に理解して頂ければ嬉しい！

参加者は兼子 健太郎 (2011・理Ⅰ・下関西)、沈 載賢 (2011・理Ⅰ・韓国)、森崎 樹生 (2011・理Ⅱ・東大寺学園)、和田 崇史 (2011・理Ⅰ・東邦大東邦)、野原 裕一郎 (2012・文Ⅱ・甲陽学院)、藤波 誠洋 (2012・理Ⅰ・久留米大学附設)、松瀬 拓磨 (2012・文Ⅰ・白陵)、元尾 健太 (2012・文Ⅱ・金沢桜丘)

★今日はありがとうございました。いつも交流の場を提供していただきありがとうございます。今後エリートとしての自覚を持って精進していこうと思います。アイコム(交換留学生)歓迎会の正確な日程が決まり次第、連絡いたします。(和田)

★兼子です。本日はどぜうへ連れて行っていただきありがとうございます。鰯、鯉、鯨と今日では日本人でもなかなか手をつけることのない食事を学生の頃から食することで、この先海外を意識した時や、もちろん女の子を意識した時に日本の文化食を思いだし、人脈作りや恋人作りにいかしていきたいものです。

## ◎終わりに

寮委員長の和田君とサブの兼子君から、お礼のメール。素直過ぎるのが気になるが、この現実から出発する必要がある。成熟した豊かな日本社会で専ら勉強をこととし、大学、更に「いい会社」に入ることを目指して少年期を過ごすからだろう。他の大学でも似たりよったりか？傍らでハングリーでエネルギッシュな留学生。まっさらな分だけ、異文化と交流、異質なものを学ぶことで、成長する余地がある。東大の濱田総長が提唱する入試制度改革や学寮改革もその趣旨だろう。彼の努力に期待し、協力したい！三鷹の寮の後輩と付き合い始めて20年近く、各界で活躍する姿を見るのは嬉しい。(再見)